

# ハブアンドスポーク型航空ネットワークにおける 航空自由化のインセンティブと効率性

宇野木 広樹\*

平松 燈\*\*

## 要 旨

近年、国家間で航空自由化政策が行われ始めている。一旦航空自由化協定を締結すると、これまで参入規制や価格規制によって守られてきた航空企業は競争を強いられることとなり、非効率的な航空企業は淘汰されてしまう恐れがある。従って、航空自由化を進めていく際には、どの国と航空自由化協定を締結することが最適なのかを考えなければならない。

以上の背景を踏まえ、3国から構成されるハブアンドスポーク型ネットワークにおける国家間の航空自由化協定締結によるモデル分析を行う。分析の結果として、次の事を明らかにする。航空サービスの代替性が大きいほど各国の航空自由化協定締結へのインセンティブが大きくなることを示す。航空ネットワークにおけるハブの国は、ある航空路線の自由化によって他の航空路線の自由化協定へのインセンティブが高まる一方、ハブではない国は、他国間の航空路線の自由化によって航空路線の自由化協定へのインセンティブが減少する事を明らかにする。また、航空路線の自由化は各国の社会厚生を合計を増加させ、全ての国で航空自由化協定が締結される状況が最も望ましいことを明らかにする。

キーワード：航空自由化協定、ハブアンドスポークネットワーク、クールノー競争

---

\*熊本学園大学経済学部特任助教

連絡先 〒862-8680 熊本市大江 2-5-1 熊本学園大学

Email: unoki@kumagaku.ac.jp

\*\*熊本学園大学経済学部講師

連絡先 〒862-8680 熊本市大江 2-5-1 熊本学園大学

Email: hiramatsu@kumagaku.ac.jp